

飛鳥田一雄日本社会党委員長の追悼演説

(昭和五十五年七月二十五日 衆議院本会議)

ただいま、議長からご報告がありましたとおり、内閣総理大臣・自由民主党総裁大平正芳君は、さる六月十二日、虎の門病院において逝去されました。誠に痛惜の念に堪えません。

ここに、私は諸君のご同意を得て、議員一同を代表し、つつしんで哀悼の言葉を申し上げます。

想えば、大平さんとは、いくたびとなく、この壇上において論議を戦わせたものでありますが、最後に大平さんと対したのは、さる五月十六日、日本社会党が提出した大平内閣不信任案の趣旨弁明を行ったときでありました。ご承知のように、不信任案は可決され、大平さんは、衆議院を解散、衆参同時選挙に踏み切られたのであります。

日頃から健康に人一倍自信をもっておられた大平さんが、全国遊説の第一声で、突如心臓に異変を生じ、僅か旬日余にして幽明境を異にしようとは、何人も予期し得ぬことであります。

私も、遊説の日々にあつて、大平さんが快方に向かいつつあるとの報道に接し、再び、この壇上で論戦できる日がくることを信じて疑うことはなかつたのであります。

だが、もはや、総理大臣席に座した大平さんの温容を目にすることはできません。

昨年春、この議場でわが党の成田知巳前委員長に対する懇篤な追悼のお言葉を戴いた大平さんに、いまこうしてお別れを申し上げなければならぬとは、思いもよらぬことでありました。

哀惜の情、胸に迫る思いであります。

大平さんは、明治四十三年三月、香川県三豊郡豊浜町の農家の次男として生をうけ、長じて県立三豊中学から高松高商を経て、苦学して東京商科大学に進み、昭和十一年卒業と同時に大蔵省に入省されました。昭和二十七年、大平さんは、池田大蔵大臣の秘書官を最後に、池田さんはじめ先輩、知友のすすめにより、政界に入る決意を固められました。そして、同年十月の第二十五回衆議院議員総選挙に自由党公認として、香川県第二区から立候補し、見事当選され、ここに政治家としての第一歩を踏み出されたのであります。私は、大平さんが議席を得られた翌年の第二十六回衆議院議員総選挙に立候補して議員となり、内閣委員会において大平さんと席を同じくいたしました。大平さんは、信義を守ることに厚く、約束事は、必ず実行される重厚な方であったことを想い起こすのであります。

昭和三十五年、池田内閣が成立するや、大平さんは内閣官房長官の要職につかれ、剛直な池田総理をよく助け、「寛容と忍耐」の政治姿勢を進言し、日米安全保障条約の改定をめくり混迷した政局と、騒然となった人心の安定に力を尽くされたのであります。

党にあつては、政務調査会長、幹事長の要職につき、池田内閣、佐藤内閣、田中内閣、三木内閣の歴代内閣にあつては、官房長官、外務大臣、大蔵大臣、通商産業大臣の要職を歴任してこられました。

大平さんは、透徹した洞察力をもって冷静に現実を見極め、日中国交の正常化、対米関係の調整、石油

危機による国際通貨、財政問題など山積する困難な諸問題の解決に全力を傾注し、これらを打開に導かれたのであります。その業績は、誠に大であるといわねばなりません。大平さんの政治手腕は高く評価され、新たな時代のリーダーとして、総理・総裁への道へ進まれることになったのであります。

大平さんはこの長い道程を振り返って、「ひとつの山を踏破したかと思えば、さらに巉々たる別の峯が控えている状況であつた」と述べておられます。

すなわち、昭和五十二年七月、大平さんが永年在職議員として表彰を受けられたときの「挨拶の中に、「現在、世界は大きな変革期を迎え、わが国もあらゆる面できびしい試験に直面している。今後、私達のなさねばならぬことには、たよるべき先例もなく、拠るべき定説もない。しかし、いかに困難であるからといって自らの義務と責任から逃避するわけにはいかない。私は、新たな勇氣をもつて、わが国の安らぎと幸せのために精一杯の努力を続けていきたい」とその覚悟を述べておられるのであります。

昭和五十三年十二月、大平さんは、八〇年代の幕明けを前に、内閣総理大臣の重職を担われることになりました。

民主政治の指導者たるものの要諦は、その政治に取り組む姿勢にあります。政策は、もとより大事であります。その政治姿勢は、それ以上に問われなければなりません。大平総理は、初の施政方針演説において信頼と合意の政治を強調されました。「自分は、民主的ルールに従い、謙虚に真実を語り、率直に当面する困難を訴えたい。そして国民に対する信頼の上に立つて国民的合意を形成したい」との決意を表明されたのであります。まさに、議会制民主政治は、かくあらねばならぬと私も思います。その後の大平さ

んの政治行動についてさまざまな評価があるとはいえ、少なくともこの決意を終始持ち続けてこられたことに対して、私は深い敬意を惜しんではならないと存じます。

大平総理は、内にあつては、迫りくる政治倫理と綱紀肅正問題、不況下の経済運営と財政危機、物価、エネルギー問題、国民福祉の諸問題に立ち向かい、外にあつては、イラン、アフガニスタン問題に象徴される複雑多岐にわたる外交の諸問題と真剣に取り組み、自らの信ずるところに従つて、その政策を遂行されました。私どもは、それぞれの政治的立場に基づいて大平内閣の政策の一つ一つに検討を加え、あるときは忠告し、ときには鋭い対決を挑んでまいりました。私どもは、八〇年代の未曾有の試練に対するチャレンジャーとして、世界平和と国民生活防衛の究極の目標に向かい、持てる政治的能力を最大限に発揮し、大平さんと覇を競う覚悟でありました。しかしながら、大平さんが空前ともいふべき内外の転換期に、政府与党の最高指導者として誠心誠意、一身をなげうって、国の内外の重要課題の解決にあたってこられたことは、私ども同僚議員はもとより、全国民のひとしく認めるところであります。

思えば、この一年七カ月、大平さんは、国家国民に対する旺盛な責任感、厳しい自制と献身の姿を貫き続けてこられたのであります。

大平さん、あなたはよく「農家の次男坊に生まれた自分が自民党に入り、素封家に生まれた成田さんが社会党に入られたのは皮肉であつた」と語っておられました。それだけに、あなたは、庶民のくらしの苦しさを、庶民の喜び、悲しみがわかる政治家だつたと思ひます。

あなたは、若い頃、農民が造つた密造酒の摘発現場に立ち会つたときのことを、「『権力』と『民草』、

『治者』と『被治者』の悲しいかわりあいについて、何かしら割りきれない、やり場のない気持ちに沈んだものである」と述べておられます。

戦時中、東京財務局間税部長のとき、戦局の悪化とともに、生活物資がすべて配給制になり、国民生活が極度に窮屈になっていくなかで、庶民が行列して一杯のコップ酒がのめる「国民酒場」を、大平さんが創設して、きびしい耐乏生活とはげしい勤労に疲れた庶民のために、ささやかな息ぬき場を考えたされたという話も有名であります。

また、あなたは、池田内閣の官房長官のとき、「総理総裁たる方は、徹底的に庶民になりきっていただかなければならない」と進言しておられます。しかし、あなたご自身が政権の座につかれ、為政者の立場に立たれたとき、庶民の心を理解することのむずかしさに、改めて「割りきれない、やり場のない気持ち」をいだかれたこともあるのではないのでしょうか。大平哲学と言われ、ときには高僧の諦観にも似た大平さんの言動は、きわめて慎重でありました。それを庶民の心を政治に生かそうとして生かされきれない苦悩の現れと感じたのは、私だけであつたのでしょうか。そのような、大平さんの人間らしい姿に、もはや再び接することができないと思うと、万感胸にせまるものを禁じ得ないのであります。

大平さん、何の予告もなく、突如おそつてきた病のために、党首として選挙戦の陣頭に立つことができなかつたことは、何よりも無念であつたことでありましょう。

ご逝去の前夜まで、選挙を案じ、ベネチア・サミットへの出席に執念を燃やし続けておられた大平さんは、奥様はじめ、近親の方々、医師団一体となつての看護もむなしく、ついに七十歳の生涯を閉じられま

した。まさに殉職と申すべきものでありましょう。返す返すも残念でなりません。ご家族の方々のご心情をお察しするとき、まことに痛恨の念を禁じ得ません。

さる九日、全国民が心から弔意を表するなかで、大平総理の内閣・自由民主党合同葬儀が、しめやかなうちにも盛大にとり行われました。ラーマン・バングラディシュ大統領、シュライヤー・カナダ総督、カーター米大統領、フレイザー豪州首相、華国鋒中国首相など五十カ月、二国際機関の外国代表が葬儀参列のために遠路来日されました。このことも、大平総理が、内政問題のみならず、国際友好親善の上に、大きな業績を残された証左であり、国際社会からの信頼がいかに厚かったかを如実に物語っております。

いま、八〇年代の厳しい状況のもとで、政治の進路について新たな対応と選択が問われているとき、すぐれた政治の指導者・大平正芳君が逝去されましたことは、ひとり自由民主党のみならず、わが国にとりまして、誠に大きな損失と申さねばなりません。

しかし、大平さんの歩んでこられた大きな足跡は、わが国政治史上にさんぜんと光彩を放ち、同時に、政治家である前に一個の人間であろうとした「人間政治家」大平さんの遺徳は、今後ともわが国民の胸の中に温かい記憶を残しつづけるであろうと信じます。

大平さん、あなたに課せられた宰相という厳しい重責は、あなたに一刻の休息も許しませんでした。大平さん、ほんとうにご苦労さまでした。

ここに、ありし日の大平正芳君のおもかげを偲ぶとともに、そのご功績をたたえ、心からご冥福をお祈りして追悼のことばをいたします。